

読売新聞社賞

確率と面積の不思議な関係

神奈川県 カリタス女子中学校 3年 瀬谷 香乃

講 評

21世紀の数学研究は「不確実性」に向かう、とフィールズ賞を受賞した世界的な数学者が1900年台後半に語っています。離れたところにあるごみ箱に紙くずを投げ入れる行為はありふれた日常です。上手く入ったり入らなかったり、1回1回の現象は不確実で予測できなくても、その多数回試行の結果から統計的確率を求めると、そこには条件に応じた数学的な規則性が見出せることを瀬谷さんは見出しました。研究では、実験データから法則を探る帰納的な推論に加えて、ゴミ箱までの距離や円形のごみ箱の大きさから面積を条件に組み入れる演繹的な推論で予測モデルの精度改善を行うなど優れた内容になっています。

中央審査委員会